

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩正子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵

事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

戦争法NO！9月1日の練馬集会に、雨について1500人参加！

9月末の国会終盤に向け正念場の戦いを

労働3団体を中心とした呼びかけによる9月1日の練馬独自の集会。会場は7月1日の第1回と同じ平成つつじ公園。午後6時になると、突然、猛烈な雨が降り出し、傘、コートはびっしょり。準備とビラ配りも一時中断。どうなるかと心配していたら、開始の6時半には幸運にも雨がやみ、皆の顔がくっきりと映し出された。早速主催団体の挨拶が始まり、武蔵大の永田教授、それに今回は話題のシールズの若手二人も登壇し、会場は熱気に包まれた。集会宣言が読み上げられたあと、4グループに分かれて桜台の中新井公園までパレードが発、結局、参加者は第1回を上回り1500人にのぼった。

8月30日の国会前の12万人集会へ向けての当日の石神井公園駅前の集会には、これも雨にもかかわらず600人が集まり、多くの人が国会にむかった、

さらに8月17日には「政党に戦争法を聞く会」が民主、維新、社民、共産の現職国会議員の出席を得て実施、8月23日には憲法学者の小沢隆一教授を招いての学習会がともに会場満杯の参加を得て実施された。加えて超

党派の区議による練馬駅前の演説会が3回おこなわれ、自公以外の政党が参加した。

戦争法反対の行動には、戦争を経験した高齢者だけでなく、多くの若い人が参加しているのが特徴だ。

「戦争になるとしたら、若者が最初に戦場にとられる。そうした危機感が友達のなかにも一杯ある」「沖縄の辺野古基地の埋め立て承認の取り消しに向けて頑張らなくては」と声をあげる。

国会では自衛隊や日米ガイドラインの内部文書が次々に明らかにされ、安倍政権のアメリカ従属、シベリアンコントロール無視が明らかにされている。そして9月5日のNHK国会討論番組では生活の党の山本太郎議員から「NHKの偏向報道」という言葉まで飛び出し、司会者がその後は山本議員の発言を求めないという「NHKの危機的状況」まで映し出されている。民主主義って何だ——シールズのコールにこたえる活動が今、我々に問われている。

(森田記)

フリートーク：有原誠治さんを迎えて：「平和行進の長期取材を終えて」 9月14日（月）後6時～7時 ココネリ3階多目的会議室

9月は幹事会の前1時間を使って、フリートークとして、共同代表の有原誠治さんに「平和行進の長期取材を終えて」のテーマでお話しいたします。幹事会は

後7時～9時まで同じココネリ多目的会議室で行います（下記）。

幹事会のご案内：9月14日（月）後7時～9時 ココネリ3階多目的会議室

主な議題 ①「戦争体験を受け継ぐ」企画の第4回以降について ②創立45周年「沖縄」企画について ③永田浩三「奄美の奇跡」出版記念会について

④藤井達郎「第5福竜丸」朗読劇企画について ⑤「テレビみつがしわ」の対応・今後の企画対応

平和行進の長期取材（5月～8月）を終えて

有原 誠治

平和行進をご存知ですか。その正式名称は、国民平和と大行進です。なんと大げさな名前かと思われるかもしれませんが、核兵器廃絶と原水爆禁止世界大会の成功を呼びかけながら、北は北海道から南は沖縄まで、全国11ものコースがあります。全都道府県内の80%の



自治体を通し、10万人以上が参加する文字通り国民的平和のページェントです。練馬で毎夏実施される平和行進は、東京

都内コースの一翼を担っています。

この平和行進は1958年に西本敦氏（元僧侶）が、東京で開催される第4回原水爆禁止世界大会をアピールするために、広島から東京までを歩き通したことに始まります。広島をスタートしたときはひとりだった行進が、51日後に東京に入るときは一万人に膨れ上がっていました。その成功を受けつぎ、翌年から国民平和と大行進となって現在に至っています。

私の映画人の大先輩である山口逸郎プロデューサーは、1975年にこの平和行進を追いかけて「歩く」というドキュメンタリーをつくりました。そしてこの夏。戦後70年目の新しいドキュメンタリーをつくるために、私に撮影と監督を依頼しました。しかも、山口さん（83才）は、東京から広島コースの通し行進者となって歩

くというのです。

東京～広島コースの平和行進は、5月6日に東京夢の島をスタートし、8月4日の広島市平和記念公園ゴールをめざして、91日間歩きます。しかも、通過する各地の自治体を訪問し、核兵器廃絶への取り組みと、原水爆禁止世界大会成功のためにメッセージや募金を要請するのです。行進者も大変ですが、行進を迎えて、激励し、次の地に送り出す地域の人々の支えがあってはじめて成り立つのが平和行進です。事前取材で判明した平和行進の妙味は、行く先々での思いがけない出会いでした。結局、私はカメラを持って山口さん同様に歩くこととなりました。私が歩けない場所は、友人にカメラマンたちをお願いしました。

平和行進は旧東海道などを歩きますので、名所旧跡のある場所を次々と通過します。ですが、観光は一切なし。代わって訪問するのが各地の軍事基地。見学や抗議をしながら、雨の日も嵐の日も歩きます。大阪で嵐に出会い、兵庫に入るとふやけた両足に豆ができました。これが痛いものの、一歩ごとに足の裏から五寸釘を撃たれるような辛さでした。が、さまざまな方々から適切なアドバイスを頂き、二日間休んだだけでなんとか歩き通せました。行進中に会った感動は数知れず。日本の反核平和の運動の大きさと深さ、地方に根付いている健康な民主主義。そして、安倍政権と戦争法への大きな怒りでした。その感動が伝わる作品に仕上げたいと思い、現在、シコシコと編集集中です。

「戦争法案」廃案・安倍ノーで練馬の宗教者が共同宣言

練馬コイノニア集会 藤井達郎

「安全保障法案が衆議院で可決されるやも知れない…。そんな不安感に苛まれ、宗教者のハシクレとして何かをせねば!との想いに駆られた。

我が所属教団・日本基督教団では、1967年3月「戦争責任告白」を世に提出、第二次大戦の際、国策に追従し戦争遂行の片棒を担いでしまった罪過に対する懺悔と悔い改めをおこなった。これは単一団体としては他の如何なる緒団体に先んじて出されたものであり、それ故当時、世からは一定の評価を得たという。

まさに戦争への足音がヒタヒタと迫り来る2015年のこの時、「教団戦争責任告白」の実質化・内実化の一端として、地



練馬選出の小川敏夫議員に戦争法案廃案を求める練馬の宗教者

域の宗教者が宗派や教祖の違いを越えて戦争法案廃案を求める宣言や要請行動が出来ない

だろうか考えた。

私とほぼ同じことを考えていたのが、「アベ暴走ストップ!ねりま」の大柳武彦事務局長。

区内の緒宗教の教師(僧侶・神職・神父・牧師など)に協力を呼び掛け、紆余曲折・侃々諤々の議論を経て、漸く宣言文・要請文が固まる。

『安全保障関連法案に反対し、平和を愛する練馬区の宗教者による共同宣言ならびに要請』というタイトル。8月17日、衆参両議院議長宛に提出。結果的に16名の賛同教師を得た。日本基督教団7名、天理教1名、真宗大谷派3名、浄土宗1名、カトリック2名、聖書キリスト教会1名、立正佼成会1名。(別紙同封)

宣言&要請文を提出しただけでは満足せず、翌8月18日から国会議員への直接訪問を開始。それぞれの宗教の袈裟やガウン・ストールを着用し、大柳さんも同行の上、練馬区選出衆参議員ならびに参院「平和安全法制」特別委員会メンバーの議員を中心に60名あまりを3日掛けて廻った。そして、9月2日、日本基督教団東京教区主催の平和祈祷会の席上、藤井が『練馬宗教者共同宣言ならびに要請』を紹介し、東京教区エリア内の各地域ごとの取り組みの必要性をアピールした。宗教者として全身全霊を掛けて戦争法制成立阻止のために働きたいものである。

「テレビみつがしわ」再開—武蔵大学生の「アスベスト」取材順調に開始

8月3日前9時浦和駅集合で、武蔵大の取材学生3人と永田教授、文化の会は森田、田場の2人、そしてアスベスト問題の専門家3、4人の総勢約10人のメンバーでした。事前に専門家にパンフやアスベストの現物をみせてもらって学習し、4、5軒の解体家屋を専門家の案内で見回りました。この専門家の中には、練馬区で学校、公共施設でアスベストが問題になった時に相談に応じた人もいまし

た。かなりの自治体では家屋を解体する際に、その毒性を除去するためにアスベストを別途処理するという許可証を取得することが義務付けられているそうです。確かに見回ったうちの2、3軒ではその許可証が貼ってありました。あまり練馬では見た覚えがないのですが、おそらく意識しないとわからない代物なのでしょう。取材順調の報告です。(田場記)

区主催の「平和祈念コンサート」で小岩さんが初の「戦争」語り部に
満杯の1600名の前で「練馬の戦争」体験を40分にわたり独演
小岩さんの語りをビデオで収録—視聴希望の方は事務局・小岩まで連絡を

8月7日に文化センター大ホールで行われた練馬区主催の第23回平和祈念コンサートで、小岩昌子さんが満員の1600名の参加者に向け、「練馬にも戦争があった」のタ

イトルで40分近くにわたりスピーチし、大好評を得ました。

同コンサートでこうしたスピーチが行われたのは初め

て。区長があいさつの中でわざわざ「こうしたスピーチは初の試み」と紹介したほどで、事前の打ち合わせ。リハーサルでも小岩さんへの気の使い方は大変だったとか・・・当初は20分という時間制限がやかましく言われましたが、司会の方から「小岩さんが言いたいことを言って結構。時間は気にしないで」という振りがあったため、小岩さんも言いたいことを話したそうです。「戦争は絶対反対」「戦争には加害も被害もある」ことを強調していたのは小岩さんらしい「語り」でした。

小岩さんから頂いたメモをそのまま掲載できませんので、ホンのさわりだけ紹介したのが、下記です。文化の会では区の許可をとって当日の約40分の話全部録画でとっていますので、ビデオをご希望の

方は小岩さんか、事務局にご連絡ください。無料（送料込み）でお分けします。

（小岩さんの語りのサワリの部分）小岩さんは1929年の練馬生まれで、現在までずっと練馬・桜台に在住。小学校2年の1937年に日中戦争が始まり、終戦の45年の時は女学生。学徒動員で工場通いをしましたが「風船爆弾」を作っていたことは知らされずじまい。戦争当時の「緘口令」がいかに徹底していたのか、庶民には知らされなかったということです。知ったのは戦後自分で調べた結果で、知ったことは知らせる必要があるということで、始まったのが小岩さんの「語り部」活動です。・・・（以下略）

（田場記）

文化の会「戦争体験を受け継ぐ会」第3回—小岩さんが進行役 3人の語り部と参加者が共感—お互いの体験交流の大事さを確認

7日の祈念コンサートの1週間前の8月1日に、元教員の3人を語り部とした「戦争体験を受け継ぐ会」がココネリで行われました。小岩さんが進行役を担当し、望月達雄さんが中野での空襲体験、矢島祐治さんが福島での学童集団疎開、川崎せつ子さんは父親が（おそらく）満電の通信職員としての満州への一家移住と終戦直後の生活、をテーマにそれぞれ報告がありました。皆さん揃ってメモを基に報告されました。

うち望月さんからは中野坂上、沼袋での空襲の記録のほか、資料として配布された連れ合いの三恵子さんの「兄の出征と死亡通知を受けとった時の衝撃」をつづった短編は涙なしには読めないストーリーでした。また川崎さんは母親にかいてもらった戦時中の生活をつづった手紙を読み上げました。参加者は4

0人近くおり、若い人から「実際に話を聞くと、戦争への感じも違ってくる」といった感想も語られましたが、やはり戦争体験を共有する世代の人たちとの話が弾みました。

戦後70年を迎えた今日では、戦争体験を語れる人が少なくなっています。戦争法案が国会で大問題になっている折、文化の会では「テレビみつがしわ」で戦争3部作（成増飛行場、小岩さんの風船爆弾、自衛隊の演習イベントと学生）を作っていますので、これらを使ってあちこちで「戦争を語る会」の小集会をもてると、戦争法案反対の思いは一層つよくなるのではないのでしょうか・・・

なお小岩さんは9月から10月に、生協関連、大泉第2小、富士見台小から「戦争」語り部としてのトークをお願いされています。

練馬区の教科書問題：公民、歴史で育鵬社版推す委員いるも採択されず
ねりま教育連絡会議事務局長 吉田 良

今年度の練馬における中学校の教科書採択は、大変厳しい状況の中で行われ、下記のような結果となりました。

4月に、練馬区教委は、教科書採択制度を、学校ごとの研究会を廃止し、見本本閲覧期間も短くし、展示場所も少なく、学校現場の教師の意見を事実上聞かない制度に改悪しました。また、区民の閲覧もたった二箇所しか設けず、期間も短く、十分に聞く姿勢がないという制度に改悪しました。調査委員会、協議会の報告や答申がどのようなもので、どう採択に生かされたのかということも闇の中でした。

また、「教科書採択を公開・民主的に」「真理・真実に基づく教科書を」など練教組、教育連絡会議、新婦人、区民など提出の6本の陳情をすべて、「限られた意見」と不採択にするなど、区民のまっとうな意見を敵視する姿勢も目立ちました。採択当日も、各委員の口から、現場教師の意見、調査委員会の意

見、協議会の答申などを考慮する発言は一切聞かれなかった点など、どこから見ても、練馬における教科書採択が危険な方向に向かっていることを示しています。そんな中ですが、当日は、70名近い傍聴者が駆けつけ、採択の状況を見守りました。傍聴席は、18席のみで抽選になりましたが、抽選に外れた人も、1903会議室で音声での採択の様子を聞き取りました。

注目の、社会科（歴史的分野）は、教育出版社が、社会科（公民的分野）は、東京書籍が採択されました。歴史で、育鵬社を推薦した委員が1名、公民で育鵬社を推薦した委員が2名いるという状況でした。育鵬社を推薦する理由が、歴史に関しては、「我が国の歴史を肯定的に記述し、大事なことを伝えている」「戦争肯定ではない」「日本人として誇りが持てる教科書」など、私たちが指摘してきた育鵬社の危険性、歴史事実と反する点など一顧だにしない意見がありました。公民に関しても、「情報量も多く、客

観性がある」「近隣諸国との関係の解説は、興味・関心を抱かせる」など、二人の委員から賛同の意見が出て、他の委員からも共感の意見が出ました。憲法の三原則の捉え方、国民の権利ではなく義務の強調、天皇の扱いなど私たちが指摘したことは、まったく考慮されませんでした。結果は、薄氷を踏む思いで、歴史・公民とも育鵬社は採択されませんでした。今後のことを考えると、大変危険な状況であると言わざるを得ません。

総じて、教育委員は、個人としては、教科書を自分なりに検討し、意見の述べていたと思いますが、そこに欠落しているのは、区民や現場教師の意見に十分耳を傾ける姿勢です。教科の専門的な内容については、実際に教える教員がどう考えるのかが一番大事な視点であり、今回の採択はこれをないがしろに、たった5人の教育委員の個人的な意見で採択してしまっ

たというのが傍聴していたの感想でした。

教科等	内藤委員	安藤委員	長嶋委員	外松委員	河口委員長	結果
社会(歴史)	東書	教出	育鵬社	教出	教出	教出
社会(公民)	東書	育鵬社	育鵬社	東書	東書	東書

永田浩三さんの「奄美の奇跡」(兼ベン・シャーン)出版を祝う会
11月17日(火)後6時半～江古田「ギャラリー古藤」会費1500円

先日9月1日の戦争法反対集会でのスピーチ、美術の会の「ベン・シャーン」の講演、それに「テレビみつがしわ」の取材・制作と、永田浩三教授には多方面でお世話になり放しです。そこで少しは恩返しを、と最近執筆された「奄美の奇跡」の出版のお祝い会をしようということになりました。日程調整した結果、少々先になりますが、11月17日(火)後6時半～9時半、ギャラリー古藤でということになりました。

奄美が祖国復帰を勝ちとったのは1953年。1973年

今回の採択に向けては、ねりま教育連絡会議が、6月14日に石山久男氏を招いて、教科書学習会開催し、練教組、新婦人、教科書ネットや多くの区民が民主的採択を求めて大きな運動を繰り広げてきました。教育委員会を地道に傍聴し、その結果を区民に広げたり、署名をとったり、チラシを配布したり、街頭宣伝をしたり、教育懇談会や教科書学習会・カフェを開いたりと昨年より地道に奮闘してきました。

上記のような厳しい情勢のなかでも、子どもたちにとって決定的な害悪をもたらす結果に至らなかったのは、このような区民の運動のおかげだと思います。ほんとうに、お疲れ様でした。今後共、教育を国民・区民・子どもたちに取り戻し、子どものいのち輝き、誰もが人間として大切にされる教育の実現をめざしてともに運動を進めていきましょう。

に本土復帰した沖縄に先んじること20年前だったことはあまり世に知られていません。その復帰に道を拓いたのがガンジーの非暴力主義に学んでの全島一丸の陳情署名やハンガーストライキなど壮絶な戦いでした。

練馬の革新区政を実現した故田畑健介氏は奄美出身で、復帰運動では青年団の一員として活躍しました。こうした奄美の本土復帰への道のりをたどったのが「奄美の奇跡」です。当日出席の皆さまには定価約1800円の著書の特価1500円でお分けいただきます。

「うしろの正面だあれ」後援名義不承認問題で抗議声明書を送付

7月3日付けの文化の会からの公開質問状に対する練馬区教育委員会の回答に対し、文化の会は森田事務局長名で、回答内容に抗議し、「今回の不承認を前例とせず、憲法擁護を求める声明」を8月30日付けで送付しました。

「うしろの正面だあれ」の内容に対しては、一切クレームなし(むしろ評価していた)にもかかわら

ず、共催した「ねりま九条の会」の都知事選への対応が問題だとして教育委の後援を不承認としたのは全く不当で憲法にもとる行為です。教育委は、最近国会で使われる「総合的判断」という言葉を使って不承認を説明しています。教育委の回答と文化の会の抗議声明を同封しました。

郵便振込用紙を同封いたしました。年会費2,000円お振込みください。

2015年度の郵便の振り込み用紙同封いたしました。5月16日の総会後に入会された方は15年度の会費は無しで、「会だより」は無料でお送りいたします。2,000円の年会費納入いただいた場合は16年度会費としていただきます。

9月初旬までに新しく入会いただいた方は10人前後ですが、お名前等は次号の10月の「会だより」でご紹介いたします。

会費等の連絡先 会計担当；轡田英夫 TEL3948-5129 携帯090-9809-8591